

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 社会福祉法人 海老名市社会福祉協議会

研修事業の名称 介護職員初任者研修 通信課程

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>《講義内容》</p> <p>○ 介護職の働く職場について、介護保険と介護保険外のサービスが有ることを理解する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>・各種介護サービスについて、DVD を活用し、介護現場を理解する</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>《講義内容》</p> <p>○ 講義において介護職の働く現場の仕事内容を理解する。</p> <p>○ 介護サービスが提供されるまでのケアプランからサービス提供までの一連の流れと、他職種連携などチームアプローチで関わる仕事であることを理解する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>・各種介護サービスについて、DVD を活用し、介護職の業務の理解を深める。</p>
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（ 9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	4	0.5	3.5	問1 ～ 問4	<p>《講義内容》以下を具体的事例を用いながら理解を促す</p> <p>○ 人権と尊厳の保持：</p> <p>▽人間の尊厳と自立（高齢者の自立支援、自立の意味、自立と共生、自立支援の多様性、個別ケア）</p> <p>▽ノーマライゼーションの意義（ノーマライゼーションとは何か・バリアフリーとユニバーサルデザイン）▽個人の尊厳と法制度（個人の尊厳と憲法・個人の尊厳と介護保険制度・利用者のプライバシーの保護）</p> <p>ICF の理念、生活の質(QOL)の向上</p> <p>○ 人権擁護の基本視点：</p> <p>▽高齢者虐待(虐待の調査から見えてくるもの、高齢者虐待防止法の成立と介護職員の役割、虐待とは？ 施設従事者等による高齢者虐待と身体拘束)▽利用者の尊厳の保持(成年後見制度、個人情報保護法、日常生活自立支援事業、高齢者虐待防止への対応、身体拘束ゼロの施設介護)</p> <p>《演習内容》</p> <p>・ 事例を示し、上記言葉の理解が出来るようにグループワークを行う</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>・ 尊厳の保持、QOL、虐待の定義、プライバシーの保護</p>

②自立に向けた介護	5	1	4	問5 ～ 問7	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自立支援 <ul style="list-style-type: none"> ▽サービス提供の基本視点（ノーマライゼーションの考え方、利用者本位と自立支援）▽具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○ 介護予防： <ul style="list-style-type: none"> ▽あるべき主体的な生活▽要介護状態の原因疾患▽介護予防とは（要介護の状態になることの予防・重度化の予防）▽介護予防活動の目標▽介護予防活動を支える5つの考え方について（予防・セルフケア・ケアマネジメント・ヘルスプロモーション・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ） <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援・介護予防の考え方に基づいたケアを、事例を用いてグループワークで学ぶ。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援、介護予防
合計	9	1.5	7.5		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1.5	0.5	問8 ～ 問11	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がどのような職に就きたいかにより、現実的に把握する ○ 介護環境の特徴の理解： <ul style="list-style-type: none"> ▽介護環境の理解（介護環境の特性、居宅介護の主な原則、施設介護のおもな原則） ▽地域包括ケアの方向性（地域支援事業と地域包括支援センターの役割および機能・地域包括ケアの方向性） ○ 介護の専門性： <ul style="list-style-type: none"> ▽専門職としての介護の視点（職業としての介護：個別介護計画、介護の視点） ▽チームアプローチの実際（専門職の果たすべき役割・チームワークについて理解しておくべきポイント・チーム形成におけるステップ） ▽チームアプローチの実際（専門職の果たす役割・チームワークについて理解しておくべきポイント・チーム形成におけるステップ、チーム運営上でメンバーに必要な留意点、チームアプローチの特徴と留意点） ○ 介護に関わる職種： <ul style="list-style-type: none"> ▽利用者を取り巻く多職種連携（多職種連携の目的と意義 チームケアの重要性-、協働職種の理解-チームケアにおける役割分担-） ▽多職種連携における役割分担（領域と役割の理解、介護職種の役割） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の利点について、事例を通してグループワークで学ぶ <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として共通の役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性

②介護職の職業倫理	1	0	1	問 12 ～ 問 15	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護サービスの公共性と職業倫理： <ul style="list-style-type: none"> ▽介護サービスの公共性（介護サービスの公共性、介護職としての倫理の必要性） ▽利用者・家族に対する責任（利用者・家族との関係、利用者の自己決定の尊重） ▽社会に対する責任（倫理と規範、規定されている倫理、日本介護福祉士会倫理 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職の職業倫理の重要性を理解 ・ 介護職が利用者や家族等とかわる際の留意点
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1.5	0.5	問 16 ～ 問 19	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護における安全の確保（サービス提供と安全管理体制、事故の分類と実態、リスクマネジメント -事故の要因と対策- 、事故の実態） ○ 事故予防安全対策（リスクマネジメント、事故発生時の対応） <p>感染対策のための基本的知識（感染の原因と経路、感染源の排除、感染経路の遮断、感染症の治療・スタンダードプリコーション、手洗い、手袋、うがい、マスク、エプロン、洗浄と消毒、環境整備、入浴、隔離）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスク

④介護職の安全	1	0	1	問 20 ～ 問 23	<p>《講義内容》</p> <p>○ 健康管理とストレスマネジメント（介護職の健康管理、身体的疲労）</p> <p>介護職員の労働の権利と労働法（権利と労働法、介護職員と労働法、訪問介護員の労働時間として認められる業務）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3	1.5	1.5	問 24 ～ 問 27	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護保険制度創設の背景、目的 および動向： ▽介護保険制度創設の背景▽介護 保険制度創設までの経緯▽介護保 険制度施行後の状況▽介護保険制 度の目的等 ○ 介護保険制度の仕組みの基本的 理解： ▽介護保険制度の基本的仕組み▽ 保険給付とその種類▽要介護と要 支援の認定手順▽利用者負担▽地 域支援事業等（地域支援事業、地 域包括支援センター、保健福祉事 業） ○ マネジメント：介護保険制度に おけるケアマネジメント▽居宅 サービスに係るケアマネジメン トのプロセス <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内藤と介護保険に関する資料 から情報収集し、介護保険制度につ いて理解を深める <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活全体の支援の中での介護保険 の位置づけの理解 ・各サービス、地域支援の役割 ・介護保険制度の財源構成、保険料 負担 ・ケアマネジメントの意義

<p>②医療との連携とリハビリテーション (1)医行為と介護・医療と介護の連携</p>	2	0	2	問 28 ～ 問 31	<p>《講義内容》</p> <p>○ 医行為と介護： ▽医療行為と非医療行為の範囲▽医行為への介護者の対応（吸引問題、介護職の医行為について、介護者の医行為の問題点と今後の課題）▽訪問看護、施設の看護介護の役割について</p> <p>○ 医療と介護の連携： ▽疾病構造の変化と高齢化▽介護サービスを利用する人から見た医療の現在▽介護を提供する人から見た在宅医療の現在▽ケアにおける連携の特徴▽在宅での連携の例▽連携の要はコミュニケーション▽ケアにおける連携の工夫</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医行為の考え方 ・ 医療との連携
<p>②医療との連携とリハビリテーション (2)リハビリテーション職種との連携</p>	3	0	3		<p>《講義内容》</p> <p>○ リハビリテーション職種との連携： ▽リハビリテーションの理念と目的（リハビリテーションとは、リハビリテーションの分類、障害の考え方、高齢者のリハビリテーション、地域リハビリテーション）▽リハビリテーション医療の課程（急性期・回復期リハビリテーション：病院でのリハビリテーション、維持期リハビリテーション：退院後の在宅または施設リハビリテーション）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションの理念 ・ リハビリテーション職種との連携

<p>③障害福祉制度及び その他制度</p>	<p>1</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>問 32 ～ 問 35</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者福祉制度の理念： <ul style="list-style-type: none"> ▽障害者の自立と社会参加（障害者の「自立」とノーマライゼーション、障害者の社会参加） ▽法制度の理念と障害の概念 ○ 障害者自立支援制度の概要： <ul style="list-style-type: none"> ▽障害者自立支援法の概要 ▽障害者自立支援法の仕組み ○ 個人の権利を守る制度の概要： <ul style="list-style-type: none"> ▽個人情報保護法（個人情報保護法、個人情報の活用） ▽成年後見制度 ▽日常生活自立支援事業 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活を支えるための基本的な考え方の理解 ・ 代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容
<p>合計</p>	<p>9</p>	<p>1.5</p>	<p>7.5</p>		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	4	2	2	問 36 ～ 問 39	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護におけるコミュニケーション技法（生活場面におけるコミュニケーション、相談援助技術の重要性） ○ 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（利用者の心理とコミュニケーション、家族とのコミュニケーション） ○ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際（言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション、失語症・構音障害者とのコミュニケーション、認知症 <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族とのコミュニケーションを、技法を用いてロールプレイで理解を深める ・利用者の状況に応じたコミュニケーションについてグループワークを行う <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど基本的なコミュニケーションのポイント ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性の理解し介護職としてもつべき視点 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点

②介護におけるチームのコミュニケーション	2	1	1	問40 ～ 問43	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察、記録、情報伝達（チームアプローチのルーツ、チームアプローチの効果と意義、介護職と記録、報告・連絡・相談） ○ コミュニケーションを促す環境（共感的理解とコミュニケーション、情報の共有とチーム内コミュニケーション） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際施設で使用している用紙に、介護記録を作成する <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録の機能と重要性
合計	6	3	3		

6 老化の理解（6時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	2	1	問44 ～ 問47	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴（感覚・知覚の変化、注意力の変化と反応の変化、記憶の変化、知能の変化、感情の変化、性格の変化） ○ 老化に伴うからだの変化（加齢の生理学） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢に伴う症状について、グループワークを行う <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢、老化に伴う生理的な変化や心身の変化、特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴

②高齢者と健康	3	1	2	問 48 ～ 問 51	<p>《講義内容》</p> <p>○ 高齢者の疾病と生活上の留意点 (身体的・精神的機能の変化と 病気、主な症状とチェックポイント)</p> <p>高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (生活習慣病とメタボリックシンドローム、高血圧と糖尿病、循環器系疾患、呼吸器の病気、消化器の病気、代謝・内分泌の病気、脳血管系の病気、運動器の病気、アレルギー・膠原病・免疫の病気、血液の病気、腎臓・泌尿器の病気、こころの病気、眼の病気、耳・鼻・喉の病気、皮膚の病気、歯・口腔・顎の病気、感染による病気、介護保険の特定疾患)</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>・ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療、生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴え</p>
合計	6	3	3		

7 認知症の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1	1	0	—	《講義内容》 認知症ケアの理念（認知症介護の基本原則、最新の認知症ケア）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	問 52 ～ 問 56	《講義内容》 ○ 認知症の概念（認知症とはなにか、もの忘れと認知症の違い、認知症の初期症状、認知症の診察と診断） 認知症の原因疾患とその病態（アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、その他の認知症） 《添削課題出題ポイント》 ・ 認知症の定義、診断基準 ・ 認知症利用者の健康管理 ・ 認知症の薬物療法
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	問 57 ～ 問 60	《講義内容》 ○ 疾患別のケアのポイント（知症の中核症状、認知症の行動・心理症状<BPSD>、中核症状の薬物療法、行動・心理症状の薬物療法） ○ 認知症の人の生活障害、行動・心理症状の具体的特徴（行動・心理症状の具体的対応） ○ 認知症の利用者への対応（日常生活支援の基本的対応、環境整備と基本的対応、心理学的援助方法） (演習内容) ・ 事例を基に、認知症への対応方法をグループで検討する 《添削課題出題ポイント》 ・ 認知症の中核症状 ・ 認知症の進行に合わせたケア

④家族への支援	1	0	1	問 61 ～ 問 64	<p>《講義内容》</p> <p>○ 認知症家族介護者の現状の理解 （家族介護者の介護負担、認知症のケアとは、家族介護者のできること）</p> <p>認知症を持つ人の声、そして家族の声（「認知症と共に生きる私」の声を心を澄ませて聞いてください・・・、当事者や介護家族の思いに見る諸相、認知症との出会いその支援について・・・、介護者をめぐる“3つの修羅”、家族の願い、在宅介護者への休息と癒しと、そして安心を -レスパイトケアの充実を願って-）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の気持ち、家族が受けやすいストレス ・家族による認知症の理解、望まれる対応 ・認知症の人と家族が活用できる社会資源
合計	6	3	3		
8 障害の理解（4時間）					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1	0	1.0	問 65 ～ 問 66	<p>《講義内容》</p> <p>○ 障害の概念とICF（障害とは、障害の構造、障害の受容）</p> <p>障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーションの概念、リハビリテーションとは、インクルージョンとは）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICF ・インクルージョンの考え方

②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	2	1.5	0.5	問 67 ～ 問 73	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体障害(視覚障害、平衡機能障害、音声障害・言語障害、咀嚼障害、肢体不自由、内部障害)、知的障害、精神障害(高次機能障害、発達障害) ○ 難病(難病とはどのような病気か、難病の特徴、主な難病、難病患者の生活上の障害、難病の治療について) ○ 内部障害の特色や注意点を理解し、医療連携の必要性を理解する <p>難病の特性、主な症状、病態、心理の理解を促す</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各障害の内容、特徴及び障害に応じた社会支援の考え方
③家族の心理、かかり支援の理解	1	1	0	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族への支援(障害の理解・障害の受容支援、障害の受容の理解) <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を基に、家族との関わりについてグループで理解を深める
合計	4	2.5	1.5		

9 心とからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	2	0	2	問 74 ～ 問 77	<p>《講義内容：DVD 活用しながら実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護の基本的な考え方：（倫理と法的根拠に基づく介護、基本的な介護技術の原則、介護保険制度化の介護サービス） ○ 重度化防止の視点： <ul style="list-style-type: none"> ▽予防重視型システムの全体像▽介護予防を重視する背景▽介護予防プログラム <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則 ・生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法
	②介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	4	1	3	問 78 ～ 問 81	<p>《講義内容：DVD 活用しながら実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の心理： <ul style="list-style-type: none"> ▽加齢に伴う変化とその心理▽高齢者のパーソナリティと適応 ○ 自己実現と生きがい作り： <ul style="list-style-type: none"> ▽高齢期の喪失体験▽自己概念と生きがい▽生きがいとは何か▽生きがい作り支援▽感情と意欲の基礎知識 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付ける

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	2	1	問 82 ～ 問 85	<p>《DVD 活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人体の名称とはたらき（人体各部の名称、人体各部のはたらき、骨・関節・筋に関する基礎知識） ○ 神経系に関するからだのしくみ（中枢神経と体性神経に関する基礎知識：中枢神経・末梢神経） ○ 運動動作に関する基礎知識（身体の動きの基本：基本動作、ボディメカニクスの原則と介護への活用） <p>（演習内容） バイタルサインチェック（脈拍・心拍、血圧、体温、呼吸）</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造や機能 ・なぜ行動が起こるのか
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3	1	2	問 86	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家事と生活の理解（家事援助の必要性和目的、信頼関係の構築と秘密保持、利用者の価値観に合わせた生活） <p>家事援助に関する基礎知識（調理・掃除・洗濯・衣服の補修）</p> <p>（演習内容） 家事援助に関連したグループワーク</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助の機能と基本原則

	⑤快適な居住環境整備と介護	2	1	1	<p>問 87</p> <p>《講義内容：機器の使用は実際には技術演習の中で学ぶ》</p> <p>○ 住環境整備（住宅の役割と機能、家庭内に多い事故、住まいのバリアフリー、高齢者・障害者にとって快適な住まい、住宅の汚れ掃除）</p> <p>福祉用具の活用方法（電動ベッド・付属品に関する用具とその活用方法、電動ベッドの周辺用品：手すり・ベッド用テーブル・エアマット、移乗に関する用具とその活用：リフト、移乗に関する用具とその活用：車椅子など、段差解消：段差解消機・簡易スロープ・階段昇降機、排泄に関する用具の活用方法：簡易様式便座・補高便座・簡易手すり・トイレシャワー用車いす・ポータブルトイレ・尿器・差込便器、入浴に関する用具の活用方法、コミュニケーションに関する用具とその活用方法：コミュニケーション機器</p> <p>（演習内容）</p> <p>各福祉用具の活用方法と利用 使用体験</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <p>・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備</p>
--	---------------	---	---	---	--

	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	0	<p>— 《DVD 活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整容に関する基礎知識（整容の意味、整容行動の仕組み） ○ 衣類の着脱介護（衣類の着脱の持つ意味、衣類の着脱介護：衣類着脱介護のポイント・片麻痺の場合の介護・胸部以下に麻痺がある場合の介護、関節の障害がある場合の介護） ○ 整容の支援技術（洗顔、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、髭そり） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動、洗面の意義・効果
--	------------------------------	---	---	---	---

<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>12</p>	<p>12</p>	<p>0</p>	<p>—</p> <p>《DVD 活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体位・姿勢の基礎知識（体位・姿勢） ○ 体位・姿勢介護（体位・姿勢介護のポイント：寝返り・起き上がり・ベッドでの移動、介助する時の注意点：ボディメカニクスの応用・座位のすすめ） ○ 褥瘡の予防（褥創の発生要因・褥創の予防対策・早期発見） ○ 移乗の持つ意味（移乗介護のポイント） ○ 移乗の介護（移乗介助の具体的な方法：自力による移乗・介助による移乗・移乗介助の注意点） ○ 車椅子移動の持つ意味 ○ 車椅子移動の介護（移動介助のポイント・移動介助の具体的な方法） ○ 移動の持つ意味 ○ 外出の介護（移動介助：外出前の計画と確認、外出後の評価） ○ 肢体不自由者の歩行介助（肢体不自由者の歩行介助の持つ意味、肢体不自由者の移動介助） ○ 視覚障害者の歩行の介助（視覚障害者の歩行介助の持つ意味、視覚障害者の歩行介助） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳の保持・自立および自律の尊重・持てる力の発揮・ボディメカニクスを活用し、介護技術・知識を習得する ・ 体位変換と移動介助（臥位・起居動作・座位・立位） ・ 移乗介助（ベッド⇔車椅子、ベッド⇔ポータブルトイレ、車椅子⇔様式トイレ） ・ 移動介助（杖・歩行器・車椅子操作と介助・視覚障害者の歩行介助：雨天でなければ屋外でも実施） ・ 安楽な体位・褥創予防
--	-----------	-----------	----------	--

	<p>⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	2	2	0	<p>— 《DVD 活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事にに関する基礎知識： <ul style="list-style-type: none"> ▽食事をする意味（食事のケアに対する介護者の意識、食事の介護が目指すこと）▽食事の生理的な仕組み（消化・吸収の仕組み、食生活の仕組み） ○ 食事の介護： <ul style="list-style-type: none"> ▽食事の介護のポイント、食事をするための機能とアセスメント、身体状態に応じた食事の介助 ○ 口腔ケアの支援技術： <ul style="list-style-type: none"> ▽口腔ケアの意義（口腔ケアの定義、咀嚼・嚥下機能の保持、感染防止▽口腔の仕組みと働き▽口腔ケアの基本▽口腔ケアの実際（演習内容） ・食事介助（姿勢・摂食体験） ・ 口腔ケアの方法
--	-------------------------------------	---	---	---	--

	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7	6	1	<p>問 88</p> <p>《DVD 活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入浴・清潔保持に関する基礎知識： <ul style="list-style-type: none"> ▽入浴の持つ意味▽清潔保持の意味▽清潔保持のための行動の仕組み（清潔保持のための方法と援助のポイント） ○ 入浴の介護： <ul style="list-style-type: none"> ▽入浴介介護における個別性、入浴介助のポイント、一般的な入浴介助の手順、障害別・入浴の環境と介護、リフト浴と機械浴の介護 ○ 身体の清潔の介護： <ul style="list-style-type: none"> ▽全身清拭の介護のポイント、全身清拭の拭き方と手順、陰部洗浄（臥床）、足浴、手浴、洗髪（ベッドで寝たままの洗髪、布団の上で寝たままの洗髪、椅子に腰掛けての洗髪、ドライシャンプーでの洗髪、アルコール洗髪） ○ 整容の支援技術（⑥の復習）： <ul style="list-style-type: none"> ▽（洗面の意義・効果：洗顔・目の清潔方法・鼻腔の清潔方法・耳の清潔方法・爪の清潔方法・洗髪・髭剃り） <p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般浴と全身清拭（体調の確認・環境の調整・使用物品の準備・全身の観察・清拭方法・支え方） ・洗髪・陰部洗浄・部分浴（手・足など交代で実施） <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴や清潔の意味 ・入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具 ・入浴に関するからだのしくみの理解
--	--	---	---	---	--

<p>⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>6</p>	<p>0</p>	<p>—</p> <p>《DVD活用しながら講義と演習を実施》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄に関する基礎知識： <ul style="list-style-type: none"> ▽排泄の介護の持つ意味▽排泄の仕組み ○ 排泄の介護： <ul style="list-style-type: none"> ▽排泄行動の機能と自立に向けたアセスメント（排泄の場所と用具の選択、尿意・便意の把握、自立に向けたアセスメントと排泄介護、介護のポイント、おむつ交換、おむつ使用とその介護） <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの保護・自立を支援する介助・排泄関連用具の使用方法（ポータブルトイレ・尿器・紙おむつ） ・便秘の予防（食事内容の工夫、水分摂取量確保・腹部マッサージ）
<p>⑪睡眠に関するところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>0</p>	<p>—</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 睡眠に関する基礎知識： <ul style="list-style-type: none"> ▽睡眠の意味、睡眠の仕組み、睡眠の状態と睡眠障害の原因把握 ○ 睡眠の介護： <ul style="list-style-type: none"> ▽安眠への支援と安眠のための介護、寝具の整え方のもつ意味、寝具の整え方の介護 ○ 快適な環境づくりと安全（照明・防音・採光、空調の管理） <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠を支援する介護の工夫・環境整備（温度、湿度、光、音など） ・ベッドメイキングの手順、シーツ交換の手順、リネンのたたみ方 ・安楽な姿勢・褥瘡予防

	<p>⑫死にゆく人に関する こととからだのしく みと終末期介護</p>	3	1	2	<p>問 89</p> <p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 終末期ケアに関する基礎知識(終末期ケアとは、看取りの現状、いろいろな病気の終末期、) ○ 終末期のこととからだの仕組みー変化と対応ー(終末期に現れる変化) ○ 終末期ケア：緩和ケア(緩和ケアの定義、トータルペイン、臨終が近づいた時の兆候と介護、説明と同意) ○ 家族へのケア(終末期における家族、終末期の家族においてケア提供者に期待される役割、悲嘆のケア) <p>看取りの介護(看取り介護の意義・目的、看取りの目的と看取り介護の目標と介護従事者の基本的態度、介護の役割と医療職との連携)</p> <p>(演習内容)</p> <p>終末期ケアに関連したグループワーク</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた、留意点、本人、家族への説明と了解 ・介護職の役割や他の職種との連携
<p>生活支援技術演習</p>	<p>⑬介護過程の基礎的理解</p>	6	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護過程の基礎的理解(介護過程の目的・意義、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチ、チームアプローチにおける介護職の位置づけ) ○ 認知機能の低下から起こる不安感を防止し、日常生活を取り戻した事例 ○ なじみのヘルパーとのかかわりで「自立」に繋がった事例 <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画書の作成・読み方 		

	<p>⑭総合生活支援技術演習</p> <p>①演習 I</p> <p>②演習 II</p>	6	<p>〈グループ単位で事例を基に演習・発表〉</p> <p>事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題</p> <p>①要介護者への支援 (1、事例の概要 2、生活状況 3、海老名太郎さんの状態像の把握 4、必要と考えられる生活支援とその理由)</p> <p>②要介護者への支援 (1、事例の概要 2、生活状況 3、神奈川花子さんの状態像の把握 4、必要と考えられる生活支援とその理由)</p> <p>(演習内容)</p> <p>・上記の事例を、1グループ/1事例 2.5時間程度のサイクルで実施する。</p>
実習		12	<p>○講義・実技の各科目の内容を高齢者・障がい者施設において、実践することにより、介護技術を中心とする援助能力を高めることを目的として、高齢者施設・障害者施設各1日を実習する。</p> <p>実習は単なる見学ではなく、研修受講者が利用者と接して、現場の業務を体感できる内容で、可能な限り介護技術を体験できるような実習をお願いいたします。</p> <p>《主な実習プログラム》</p> <p>○実習担当者より施設の概要や特徴、業務内容、一日のプログラム、利用者の状況、業務内容、職員体制、チームケアの取り組み等について説明する。</p> <p>○申し送りの場面を見学させる。</p> <p>○介護記録やケアプランを閲覧させる。</p> <p>○基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学させる。</p> <p>○できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持たせる。</p> <p>○補助的業務(食事・入浴・排泄関連業務・環境整備等)を経験させる。</p> <p>○レクリエーション、グループ活動、行事、外出等に、利用者とともに参加させる。</p> <p>○1日の振り返りを行う。(実習記録の記入)</p> <p>○実習担当者は実習記録を確認し所定の欄に評価と署名・捺印をする。学習到達度の振り返り：到達目標と終了時のポイントを再度振り返り学習をすることで理解を進める。</p>
	合計	75	通学 51h 実習 12h 通信 12h

10 振り返り (4時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3	○学習到達度の振り返り：到達目標と終了時のポイントを再度振り返り学習をすることで理解を進める。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	○ 質の向上と人材育成（介護人材の将来見通し、くいの取り組みキャリアパスの全体像） ○ 事業所における事例を学ぶ（専門職としての心構え、事業所における OJT, 継続した学習の必要性、介護保険制度における期待に応えるために） (演習内容) ・施設・在宅で行っている各事業所の継続研修を具体的にイメージできるように紹介する
合計	4	
全カリキュラム合計時間	131.0 時間 (通学 72.5h 実習 12h 通信 40.5h)	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること